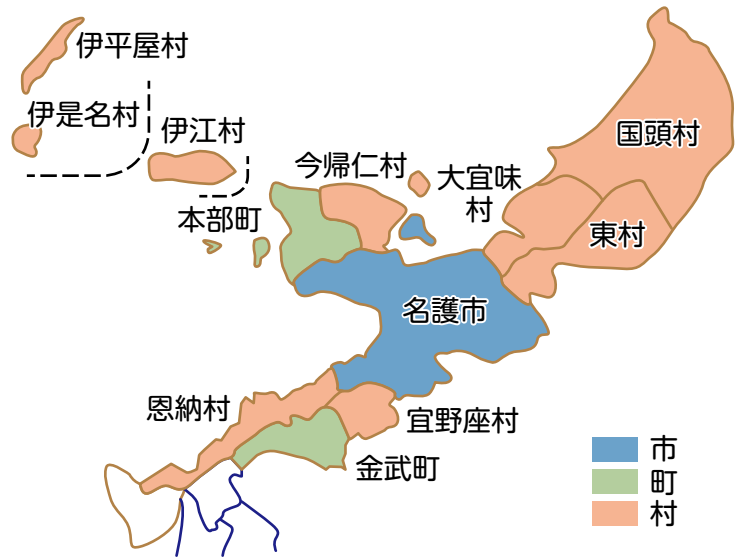


やんばるの振興に向けて！

～北部振興事業現地支援チームの活動報告～

北部地域の振興について

沖縄県北部地域は、豊かな自然が残され、歴史的、文化的に優れた資源を有しているものの、県内の他の地域に比べ1人当たりの所得が低く、過疎地域が多く存在することなど、更なる振興が必要な状況です。内閣府では県土の均衡ある発展を図る観点から、北部12市町村における連携促進と自立的発展の条件整備として、観光リゾート産業などを中心とする産業の振興や定住条件の整備などに資する北部振興事業を実施しています。



北部12市町村位置図

北部振興事業現地支援チーム発足

北部振興事業の事業期間が残り3か年となり、更なる効果発現に向け、取組を一層加速させるため、昨年8月より沖縄総合事務局に北部振興事業現地支援チームを発足させました。

局各部から職員を配置し、沖縄総合事務局の持つ総合力を十分発揮できる体制となっています。同支援チームでは、北部市町村などとの連絡調整、意見交換、北部振興事業の現地相談窓口、北部振興事業の企画立案への支援・助言などを行っています。

北部振興事業現地支援チームの活動

発足直後から精力的に北部12市町村を訪問し、市町村長との意見交換や、市町村担当職員へのヒアリング、事業現場の視察などを実施しました。ヒアリングでは、移住・定住のための住宅不足や、農業や観光業での人材不足、宿泊施設がなく観光客が素通りし他地域に向かってしまうことなどの課題があげられました。また意見交換の場以外にも個別の相談も随時受け付け、市町村の課題解決のための支援や助言などを実施しました。



市町村事業現場視察

北部 12 市町村勉強会の実施

北部 12 市町村を訪問する中で、市町村間の関係が希薄で、隣接市町村との連携による地域活性化も課題であるという意見もあったため、1月に名護市の北部会館で 12 市町村職員が一堂に会した勉強会を実施いたしました。勉強会では今帰仁村中原副村長（当時（内閣府から出向））や国頭村田邊世界自然遺産推進室長（環境省から出向）から講演をいただき、連携による北部地域の振興について活発に意見が交わされました。その後の懇親会では各市町村の職員が特産品を持ち寄り、それぞれの PR を実施しました。この勉強会を通じて、他の市町村での事業、課題が分かり、自身の市町村の課題を認識するとともに、地域活性化への足掛かりとなりました。



北部12市町村勉強会の様子



地元の特産品をPRする職員

今後の活動について

今後は、昨年度ヒアリングを実施した際に抽出した課題の解決に向け、アドバイスや解決策を提案していくとともに、引き続き相談窓口として、市町村のフォローや助言などを行っていく予定です。また勉強会についても引き続き開催するなど、市町村間の連携が密になるような取組を実施していく予定です。